学術集会
ご報告

第15回
日本生殖内分泌学会学術集会を終えて

会長
並木　幹夫
（金沢大学大学院
医学系研究科
集学的治療学
教授）

平成22年11月20日（土）・21日（日）の２日間，大阪の千里ライフサイエンスセンターにおいて，第15回日本生殖内分泌学会学術集会を開催いたしました．招請講演には米国NIHのDr. Maria L Dufauをお招きし，ゴナドトロピンが遺伝子転写に関与している興味深いご講演を拝聴することができました．さらに，教育講演では大阪大学微生物病研究所の岡部 勝先生に「遺伝子改変動物を通して見る受精の仕組み」をご講演いただき，遺伝子改変動物こそが意味ある遺伝子機能解明の必須ツールであることを強調されました．

シンポジウムは「卵巣機能調節における新知見」をテーマにし，さまざまな視点からご講演がありました．サテライトシンポジウム１のテーマは「SARMとSERM」として，「Selective androgen receptor modulator（SARM）開発の試み」と題して福岡大学の柳瀬敏彦先生と，「骨粗鬆症の予防と治療におけるSERMの位置づけ」として弘前大学の水沼英樹先生から男性ホルモンと女性ホルモンとを対比した創薬について新たな研究成果をご講演いただきました．サテライトシンポジウム２では，最近注目されている「精子形成とsmall RNA」の話題を大阪大学の仲野 徹先生が最新の話題を中心にご講演されました．

今回も27題の演題応募があり，本学術集会の本領を発揮したさまざまな領域の演題が一堂に会し，熱心な討論が繰り広げられました．いずれの演題も高いレベルでありましたが，本年の奨励賞として森 真弓先生，李 理華先生ならびに稲垣兼一先生が選ばれました．

最後に，本学会を支援をいただきました峯岸理事長，理事・評議員の先生方に感謝申し上げるとともに，この会に参加された多くの会員の皆様や，この会を支えてくださった皆様に感謝申し上げます．また，裏方として事務を担当していただきました知人社の皆様に深く感謝する次第です．